

人の子

人の子

人の子について、ダニエル書ではつぎのように書かれています。

「見よ、人の子のような者が天の雲に乗り、日の老いたる者の前に来て、そのもとに進み、権威、威光、王権を受けた。諸国、諸族、諸言語の民は皆、彼に仕え、彼の支配はとこしえに続き、その統治は滅びるところがない」。

「ここである人の子とはどんなかたでしようか。私

たちには想像することができません。

聖書の偽典であるエチオピア語エノク書では、人の子は創造のはじめから天にあるものとし書かれており、かれは終わりの時に審判の座につき、義を所有し、救いの恵みを啓示するものとして、義人の復活をもたらしめます。イエスさまの時代のユダヤ教のなかで、このような人の子に対する信仰があつたようです。

人の子であるイエスさま

聖書のなかで、イエスさまが、苦しみを受けられるまえに、みずから、人の子として苦しみを受けること

が語られています。

人の子が苦しみを受けることは、当時の人びとにと

って考えられないことでした。雲にのってくる人の

子を期待していました。

しかし、イエスさまは、人びとが期待した人の子の

姿でなく、第二イザヤの「苦しむしもべ」の姿をと

つてこられたのです。

私たちは、イエスさまに、なにを期待しているの

でしょうか。自分たちをいじめたりする人を、打ち負

かしてくれる英雄を期待しているのでしょうか。イエ

スさまは、そのようなかたではありません。

書いて下さい。

イエスになにを期待するかを考えて、次の空白に

